

萬國人物圖會

下

特別
13
3458
2



門 へ 13
3458
2

畫本異國一覽卷之四



○	○	○	○	○	○
孝 <small>かう</small>	琴 <small>びん</small>	伯兒 <small>とろ</small>	尸 <small>し</small>	夜 <small>や</small>	莫斯哥未亞 <small>もすこみあ</small>
億 <small>い</small>	牛 <small>うし</small>	齋亞 <small>しあ</small>	頸 <small>くび</small>	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>
國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>
	○	○	○	○	○
	莆家龍 <small>ほけりゆう</small>	波登 <small>はとう</small>	亞莫獨刺 <small>あもどく</small>	都番 <small>とばん</small>	氷海 <small>ひやうかい</small>
	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>	國 <small>こく</small>

早稻田大學圖書部
昭和26.3.8.
購



○ 氷海 ひやうかい

小極出地七十八度ちひまきしゅつちしちじゅうはちだう
 ける海を四時けるうみをよじ
 二氷よりて人そのふたひよりてひとその
 氷のうを往らひひのうをむかひ
 又るちりやがう船をまたちりやがうふねを
 うへへく海をうへへくうみを
 泰西圖説たいせいず
 といふ事なりといふことなり



○夜國

小極と天頂ちとせう
 二日の彼い居えより
 八月の彼い居えま
 二月の中ちゅうかかの月げつ輪りん地ちま
 其そのの下したとめめりりて夜よ
 後ごちちにに日にち輪りんととえ
 るるここらら一いつ路ろをを行いく



ののままののままののまま
 大おほののまま
 ちちののまま
 ちちののまま



○都番國

人物頭多く皆倣く
 裳おろし華衣をきる
 下よりろく家屋を造り
 軒をのけて表板を
 しくきよスモイと
 つて日本の石の
 花のぞく紅身の根
 を冷く入して又け
 玉の人のみおと
 多く積たぐと
 をりつくと富き人
 の人といふるも
 日本とてを根



とけりがるやうな
 物とるーがる
 事おとまり
 して唐屋
 五度目と
 か〜いざ
 布う〜
 きの世の
 中や布
 かつちれ
 びん人のい
 る〜ら
 て
 ち〜ふ
 る



○尸頭蠻

北亞墨利加よりけし
 の人眼又腫みく深き
 これが首ぬけき
 穢き物を喰ひし
 たよやんでから
 だよりくはんで
 とのちしてあつたらん
 けふては首城の
 てゆつてつと
 といひ又また
 しぞく
 ンドか
 つて



喉の
 のま
 人
 の
 せ
 と



○亞莫

獨

刺國

印度海の南よあ
くらちいさねの
ちり人物ありて
久ま通せぬま
さん業のう
牙ぬまとらりて
かのく地を領して
他とけいそらど山
と金浪をなと
ともしこれとる



ともしなまき金の
塊まうとぬれ地ふの
あんまうて衣扱
食物よ易るとう
うそわうてま
んてがどうぬい
ふまてア習亞
莫招刺は

なる





○波登國

一年は四度づきの
 海濱に敷木戸の
 米庫をなく法
 の高船をすろく
 交易を又けいせ
 つ所戦場なや
 けりてるあま
 ざいーさく

ふらん



○ 琴牛國

東天竺の地又南海に
 出るはるる玉人大は佛道と
 名づく又牛の書異と云ふは
 ぬるとりけい玉より南天竺の
 五陀山西南よりける天氣は
 くる日よの遙の海上より
 又秋の傍家より玉人海辺に
 出て大舎をさすり玉より編
 玉を籠り山又入とてこれを
 安んずるよ



日本
 信彼家の入日
 成るよはま



日本
 信彼家の入日
 成るよはま

○ 蒲家

龍國

北天竺のふたの
同くつらつらふこ
はふふうい莫卧
爾又層せうふ人
男女も既髪せまる
なま胡椒を食して
魚肉を食ふはさて
は玉のふふなんを信
とまつたふらとま
すむと ころり ねくと
はつたをばつとと



やうとふふふんはつひ
ころりころりは
まはままざら
ひとひし合ふ
のゆふふふこ
これつひふ
胡椒をま
備由へ
かくの
し



○孝億國

土地溫暖して風多し
 人物多し物多し
 容貌多しやうろう
 旅をこのんで四
 方又歴とて中
 るを路程つす
 比隣とるる



畫本異國一覽卷之五

- 墨瓦刺國
- 止波里國
- 印都羅國
- 訥樂馬國
- 天堂國
- 登流眉國
- 阿細亞良國
- 大日本國書舖之圖
- 智里國
- 訶陵國



猫
ゆび
かきんちう

○ 訶陵國

昔日本とある風
 倍もいやからぬ
 さうたからけいの人
 食とらふを
 めいめい
 のニせん
 ではぬ
 事あはるよ圖の中
 をんこのうぬ
 貝焼を喰ひ
 もてみるの
 ぬとてい
 うて



○印都羅國

四時とも炎熱う
て殊に二月八月と大
暑と人もの物つら
大ひの輶一子
蒼天そたく雨降
ことなと掃なる
由必人を〜
そのものつら
ハ〜
が〜
回〜
け〜
つ〜



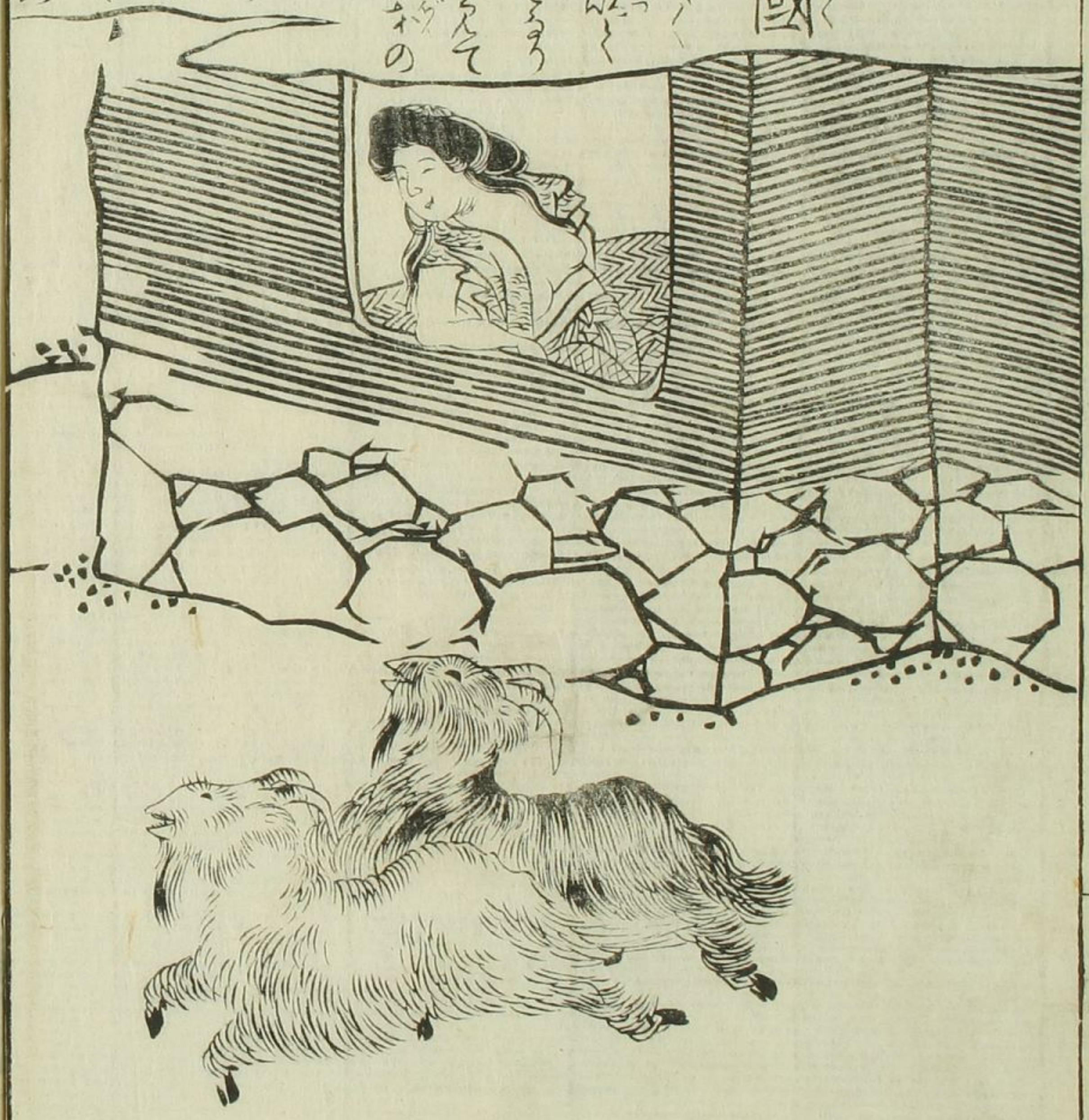
不
も
あ

い



止波里國

虎も嘯く月の
 されどその理
 羊の人のま
 ほくほく
 とやうじん
 画工のありて
 こつらち
 終羊る





仁流又極つて天を知らん
 けいふとていつつてまきまの地獄の夜
 因米の土地をまきまの地獄
 末あふは極ふの大地五内つら
 かんまきまの



天
 堂
 國

又天方むらさき
 風景融和して
 時々春のどし
 山野よさるに
 山野よさるに
 獅のぬれよまて
 つとぬらつらんお温
 て邪せんとて
 月と恋なれはまがめて
 衆んでみるむらり

○ 嗚細亞良國

大西洋より南にあり

玉の山あり

石の量あり

六尺四方

天より降る

祈る人あり

玉の山あり

女房あり

いふ人あり

玉の山あり

女房あり

いふ人あり

玉の山あり

女房あり

いふ人あり

玉の山あり

女房あり

いふ人あり

玉の山あり

女房あり

いふ人あり

玉の山あり

女房あり

いふ人あり

玉の山あり

女房あり

いふ人あり

玉の山あり

女房あり

いふ人あり

玉の山あり



○ 登流眉國 とろひこく

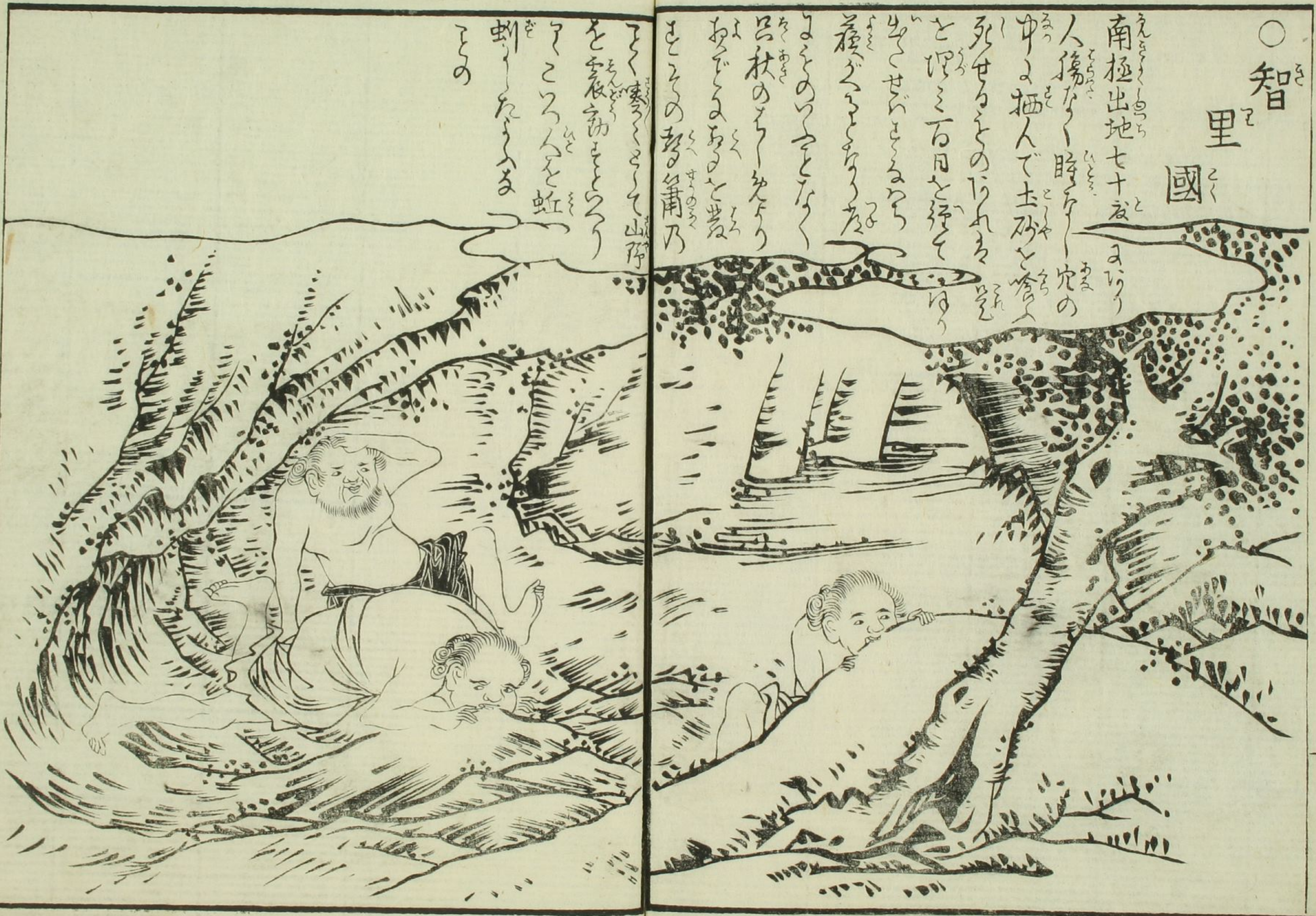
暖ぬくふくうくてきもい單い
 衣きをまよましし風かぜ
 後ごいいとまままのの
 眉まゆと抱ここて抱ここるる
 正せい月げつのの狛わ子こはまいいよよ
 後ご後ごとのくくるる
 てのららちちんんとと
 ととののちちいいらら
 まままままま
 たたららししららんん
 ととららししららんん
 いいんんざざんんよよ

まままままままま
 まままままままま
 げげららんん
 まままままままま
 るるららんん
 りりららんん



○智里國

南極出地七十夜
 人傷なく時を
 中へ挿んで土砂を
 死せるそのちれ
 と呼ぶ百日を
 出せいと云ふ
 養ふと云ふ
 よそのつとなく
 呂杖のちり免
 おどるあつと
 とそののちの
 山
 を衣
 ころんを
 刺



この
 ころんを
 刺

○大日本國書舖之圖

所匯會
此來

遊記 全五冊

英國一覽全五冊

歐陽永叔日本詩曰徐福
行時書未焚逸書百篇異國
今尚存又宋景濂曰

東曲曰中國圖書畫
購判一時文物故班々

皇國の書也

聖代の徳化四海又

恩徳は後々を以て

家々又讀書一
戸々又講説して

書癖の道り

やそれぞ

皇國の書の

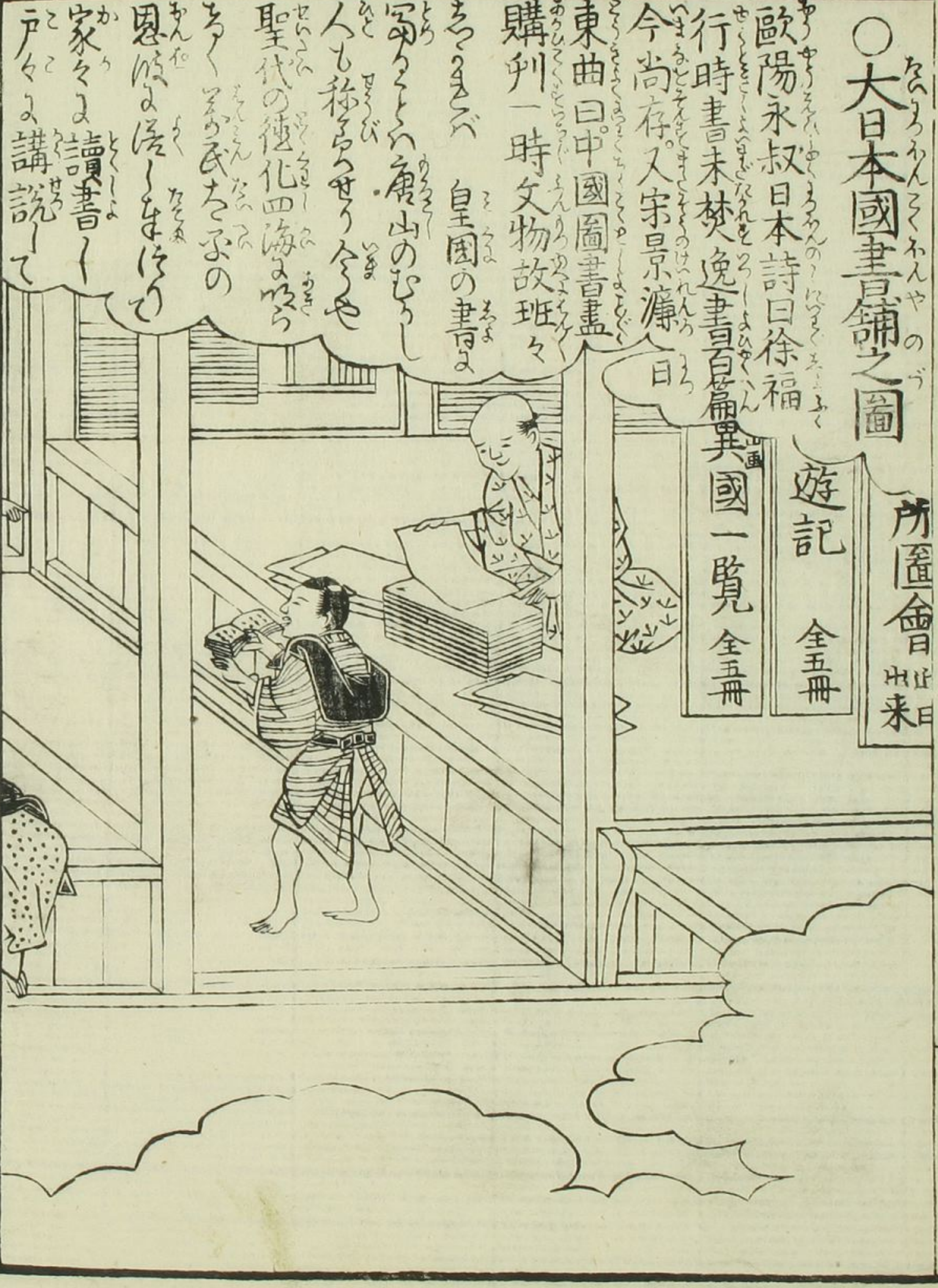
盛んする時

幸ひては書の

ふこころれぬる

後なる平の余

ほこころと作さ



接

千帆乃帆せんがべうらうらざるにりそのら發後後に
握くりてふふあり諸國を潤く終る
に先先神神んん子子かかしし今今外外國國河河氏氏が
筆筆こそのゆゆききここららぬぬ此此事事實實を影
久久未未傳傳花花丸丸二二子子が詞の也を笑し彼及及
かかきき矣矣國國と一強強んん一一と雨云云

勢勢元元白白子子
幸幸人人

杜工部集清本及刊全八冊 論語義疏全五冊

近世叢語正續全八冊 蘇東坡絕句全三冊

山堂詩文鈔全四冊 詩作捷徑全九冊

奇談一笑全一冊 日本諸家人物誌小本四冊

直入翁壽筵圖錄白紙摺紙全三冊 鑒定新選書畫一覽懷中本全二冊

唐本和本書畫法帖膏買所

忠雅堂 大阪本街心齋橋心齋橋 赤志忠七版

